

令和2年3月4日

保護者の皆様

京都市立向島秀蓮小中学校

校長 吉川 康浩

臨時休業期間中の健康管理について

平素より、本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。

さて先日、新型コロナウイルス感染症対策として、3月5日（木）から春季休業期間前日まで臨時休業期間とすることをお知らせしたところです。

臨時休業期間中、お子様には可能な限り自宅で過ごしていただくことになりますが、感染拡大防止に取り組むという本措置の趣旨を踏まえ、各御家庭においては、お子様の健康状態の把握や感染症対策の徹底等により、健康と安全の確保にお取り組みいただきますようよろしくお願いいたします。

なお、お子様や御家族等が新型コロナウイルスに感染した場合や濃厚接触者となった場合は、すみやかに学校へ御連絡ください。

記

1 健康状態の把握

- ① 毎日朝晩、お子様の体温を測定するなど、添付の「健康観察票」を活用し、健康観察を行ってください。本票は、必要に応じて学校に提出していただく場合がありますので、大切に保管してください。また、学校の「特例預かり」でお子様が登校される際は、必ず「健康観察票」を持参させてください。

- ② 発熱等、風邪の症状があり、受診をされる場合は、事前に医療機関に電話等で相談してください。（相談の結果、通院される場合は、マスクの着用等、咳エチケットの徹底をお願いします。）

- ③ 以下の症状がある場合は、帰国者・接触者相談センター（電話 075-222-3421、土・日・祝日を含む24時間対応）に御相談いただくとともに、学校へお知らせください。

○ 風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上(※)続いている（解熱剤を飲み続けなければならないときを含む）

○ 強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある

※ 基礎疾患等があるお子様は、上の状態が2日程度続く場合

④ 以下の場合、すみやかに学校へ連絡してください。

- お子様が、検査などにより新型コロナウイルス感染症と診断された
- お子様に感染の疑い（疑似症）があり、検査を受けるよう医師等から言われた
- 御家族などが感染され、お子様や同居されている御家族が濃厚接触者として検査や経過観察が必要であると医師等から言われた

⑤ お子様が長時間自宅で過ごされること等により、精神的不調等の心配がある場合は、学校に御相談いただくか、次の窓口まで御相談ください。

こども相談24時間ホットライン 電話 351-7834

2 感染症対策の徹底

御家庭においては、引き続き以下の基本的な感染症対策の徹底をお願いいたします。

- 免疫力を高めるため、十分な睡眠、適度な運動やバランスのとれた食事を心がけてください。
- 手洗いが大切です。帰宅時や調理の前後、食事の前などにこまめに石鹸やアルコール消毒液などで手を洗いましょう。
- 咳などの症状がある場合は、咳やくしゃみを手で押さえると、その手で触ったものにもウイルスが付着し、ドアノブ等を介して他の方に病気をうつす可能性がありますので、マスクを着用する等、咳エチケットを行ってください。
- 空気が乾燥すると、のどの粘膜の防御機能が低下しますので、部屋を乾燥させないように気を付けてください。また、こまめに部屋の換気を行ってください。
- 不要不急の外出は避けてください。やむを得ず外出する場合も、できるだけマスクを着用してください。
- 持病がある方などは、公共交通機関の利用や人混みの多い場所を避けるなど、より一層注意してください。

3 臨時休業期間中に登校される場合（特例預かり等）

- ① 発熱や風邪の症状があるなど体調不良がある場合は、登校を控え、自宅で休養させてください。
- ② 登校後、発熱等の体調不良が生じた場合は、保護者のお迎えを依頼しますので、学校からの連絡が確実につくようお願いします。
- ③ 万一、本校の児童生徒等や教職員に感染者・濃厚接触者が確認された場合は、保護者の方に御連絡のうえ、速やかに帰宅していただきます（必要に応じてお迎えをお願いします）。翌日以降も、感染のおそれがないと確認できるまで、すべての児童生徒等について受入れを行いませんので、御承知おきください。

（参考）新型コロナウイルス感染症とは（京都市情報館ホームページより）

- ・ ウイルス性の風邪の一種です。発熱やのどの痛み、咳が長引くこと（1週間前後）が多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える方が多いことが特徴です。
- ・ 感染から発症までの潜伏期間は1日から12.5日（多くは5日から6日）といわれています。
- ・ 新型コロナウイルスは飛沫感染と接触感染によりうつるといわれています。
- ・ 重症化すると肺炎となり、死亡例も確認されているので注意しましょう。特に高齢の方や基礎疾患のある方は重症化しやすい可能性が考えられます。

※ 飛沫感染 … 感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。

※ 接触感染 … 感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染します。